

大阪成蹊大学 令和三年度入学式式辞

桜が昨年よりいっそう早く咲きそろった今年ですが、新型コロナウイルス感染症の鎮静化はまだまだです。残念ながら保護者の皆さんのご同席もかなわない中の入学式となりました。

大阪成蹊大学の令和三年度新入生、一年次生七百七十二名三年次編入生七名、大阪成蹊大学大学院教育学研究科三名の総勢七百八十二名のみなさん、入学おめでとうございます。明るく希望と期待にあふれた皆さんをお迎えできたことを大変うれしく思います。

本年度は芸術学部造形芸術学科で入学定員増と改組があり、二つのコースの再編と新たな分野としてバーチャルメディア・ボイスクリエーターコースが誕生しました。大阪北部に唯一の芸術学部として、新しい時代のデザインやさまざまなメディアを学べる先端的な学部としてよく知られることとなり、多くの入学生を迎えることができました。もちろん経営学科・国際観光ビジネス学科・スポーツビジネス学科の三学科を擁し社会とつながる多様な学びを深める経営学部、幼稚園・保育園から小学校・中学校・高等学校までの教育を支え、子供たちの学びに貢献する教育学部もますますその存在感を高め、多くの新入生を迎えることができました。

明日から始まるオリエンテーションを経て再来週には大学での学びが始まります。そこで、高等学校とは異なる本学の学びの特徴についてお話ししたいと思います。

一番はじめに知っておいていただきたい学びの特徴はアクティブラーニングです。大学ではすべての授業において、学生一人ひとりが能動的に学習活動に参加することが求められています。講義の最中にいきなり意見を求められたり、ある課題について議論が行われたりします。そこでは必ずしも正解を求められているわけではありません。活動を通して脳を活性化させ、最後にはより妥当な考え方にいたる道筋を学んでいくことが大切なのです。失敗を恐れず活動することを知

識が定着するといわれているからです。

また本学では、四年間で各学部の専門分野について学修を深めます。それに加えて、変化の激しい現代社会の中にあつて、働き続け学び続ける力、人間力の養成に努めています。そうした人間力教育の要として本学では大学入学一年目の初年次教育と二年生以上で履修するキャリア教育を進めています。初年次教育は「自己を知り、社会を知る」ことを目的とした学びで、読み・書き・話すことを訓練していきます。本学特有のトピックは「持続可能な開発目標 SDGs」の学びです。「SDGs」は国際連合で世界の先進国から発展途上国まで一九〇カ国以上の国々が同意して決定されたものです。環境問題や国家間の格差、貧困問題などを克服し、地球全体の国々が平和を享受しながら持続して発展するための目標で、大変重要な意義を持った決議となっています。また、二年次以降のキャリア教育では「社会を研究し、自己を分析する」学習を行います。学外・地域連携の課題解決型学習 PBL やインターンシップ、学校体験活動など社会とつながる実践的な学びを進めます。

これらの初年次・キャリア教育には二つの重要な学びの要素があります。一つは集団的な学習で、様々な課題についてグループで議論し新たなアイデアの提案活動を通して、グループの構成員同士が互いに高めあい、成長することです。他者の意見を尊重し受け入れながら学ぶことで一人ではできない成長を保证することになります。二つ目は社会との接点、本学ではソーシャルタッチポイントと呼んでいます。社会との接点を通して学ぶことです。企業や行政・教育機関の現場で活躍し、働く人々とふれあい、現場での課題を出していただき、批評を受けることで、社会で働くことの実験を体験していくことができます。

人間力についても一つ触れます。社会で働くうえで現在の若者に必要とされている力として、困難に会ってもくじげない、耐え抜く力が必要とされています。これは、現在目の前にある誘惑や欲望のために時を過ごすのではなく、未来の自分の成長や社会の発展のために、自制心（セルフコントロール）を働かせること

を意味します。

最近目を通した本に「なぜ「やる気」は長続きしないのか」と題するアメリカの実験心理学者の本がありました。その中では、私たちの持っている「感謝」、「思いやり」、「誇り」という三つの感情をもって人と接していくことで、人間は忍耐強く、誘惑にも負けないようになり、同時に自制心ややり抜く力も強化できると述べています。

人に対して「感謝する」ということは他人との関係を良くしていくものですが、そうしたただでなく、心理学の実験によれば、感謝の念を抱くことで、人により未来志向となり、将来多くの利益を得るために現在は辛抱するといった自制心が育つことが明らかになったそうです。ところで感謝の気持ちがある人との関係で受動的なものであるのに対して、「思いやり」の感情はより能動的なもので、他人のために自分を犠牲にすることをいとわない行動となり、自己効力感、自分は力を発揮できるという信念を強めてくれます。最後の感情「誇り」ですが、誇りを持つことで仕事に対する意欲や忍耐力を高めてくれるもので、さらに難しい仕事にも熱心に取り組めるようになります。

この感謝、思いやり、誇りといった感情をもって生きていくことは、一人ひとりの人格・品性を高めていくもので、ひいては人間力の基本となります。

多くのことを述べましたので、まとめをしておきます。大学の教育はアクティブラーニングにあること。初年次・キャリア教育を重視していて、集団で学ぶこと、社会との接点をもって学ぶことにその特徴があります。

また「感謝」「思いやり」「誇り」の感情を育むことで、自制力、忍耐力のある人に成長しよう！以上です。

明日からの大学生活、友人を作り、学習に励み、さまざまな活動に挑戦しながら成長されることを期待します。

二〇二二年四月一日

大阪成蹊大学 学長

武蔵野 實